

小さな勇気がつくる明るい社会

太田市立西中学校

二年

船引

莉菜

ある日の放課後、私は友達と別れて一人で家に向かっていた。スパーの近くの横断歩道の前で、買い物袋を下げたお年寄りの女性が立ち止まっていた。信号は青で、私が、荷物が重くて歩くのが大変そうでした。私は「大丈夫かな」と思いながらも、「声をかけたら迷惑かもしれない」と考えてしまいました。そのまま通り過ぎてしまいました。家に着い

てからも、その女性の姿が何度も頭に浮かびました。「もし自分のおばあちゃんだったら誰かに助けてもらいたいはずだ」と思うと、声をかけなかった自分が情けなく感じました。その日は、ずっと後悔の気持ちが消えませんでした。でた。

夏休みの間、私は宿題をしに図書館へ行きました。帰るとき、同じ中学校の同級生が私の落とした消しゴムを拾ってくれ、「はい、これ」と笑顔で渡してくれました。たっ、たっ

れだけなのに、心が温かくなり、あの日の出来事を思い出しました。「小さな行動でも、人の気持ちはこんなに明るくなるんだ」と気づいたのです。それから私は、少しずつ勇気を出して行動するようになりました。先日、帰り道で自転車のチェーンが外れて困っていた同級生を見かけました。以前の私なら通り過ぎていたかもしれませんが、でもそのときは「手伝おうか」と声をかけました。すると

「助かるよ」と笑顔が返ってきました。その笑顔を見たとき、胸の中があたたかくなり、自分も嬉しくなりました。あの帰り道で助けられなかった女性のことは、今でも忘れられません。しかし、その後悔があつたからこそ、「できることはやってみよう」と思えるようになりました。困っている人に声をかけるのは勇気がいるかもしれませんが、その勇気は必ず相手にも、自分にも良い形で返ってくると思っています。

社会を明るくするために必要なのは、特別
な力や大きな出来事ではありません。「ちょ
っとした親切」や「思いやり」の積み
重ねこそが、人の心を温め、周りを変えてい
くのだと思います。これから私には、小さな
勇気を忘れずに行動していきたいです。そし
て、私の行動が少しでも誰かの一日を明るく
できるように、学校の帰り道でも、夏休みの
図書館の帰りでも、日常のどんな場面でも、
思いやりの気持ちを持ち続けたいと思います。